

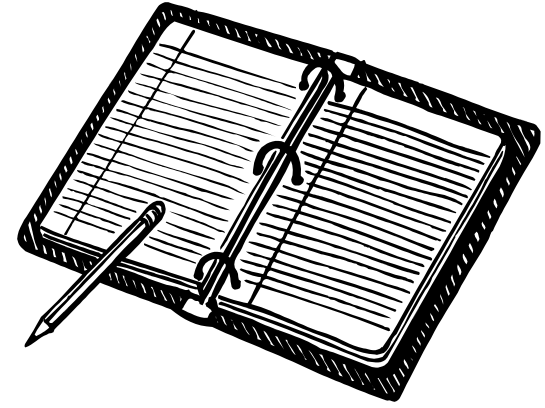
子どもの問題を抱える家族への支援 ～不登校やひきこもりに着目して～



奥野雅子（岩手大学）

<自己紹介>

- 富山県立富山高等学校卒業
- 東北大学薬学部卒業
- 薬剤師として13年勤務した後、渡米
3年間ニューヨーク在住
- その間アメリカの大学院に入学して心理学を学ぶ
- 帰国後 東北大学大学院教育学研究科に入学
- 博士課程在学中から臨床心理士として、教育や医療の現場
で相談業務を行う
- 薬剤師のコミュニケーション教育にも従事



<自己紹介(続)>

- 2010年4月 安田女子大学心理学部准教授
- 2013年4月 岩手大学人文社会科学部准教授
- 2019年4月 同大学教授
- 専門は、臨床心理学、家族心理学、
コミュニケーション

<資格>博士(教育学)

臨床心理士、公認心理師、薬剤師



＜学外業務＞

- 岩手県立中央病院小児科に勤務
- 盛岡いのちの電話相談員のスーパーバイザー
- 海上保安庁 第二管区こころの健康アドバイザー
- 岩手医科大学 治験薬審議員
- 岩手医科大学 臨床検査審議員
- 復興庁 復興推進委員会委員



日頃から不登校を支援していて感じることに

- 不登校の子どもは優れている！
- 不登校の子どもは必ずしもカウンセリングを受けなくてもよい
- 家族が進化をとげる！



<本日のポイント>

「なぜ原因を言わないのか」

「なぜ昼夜逆転になるのか」

「なぜカウンセリングを受けたがらないのか」🌻

「なぜプライドが高いのか」🌸

「見守るだけで回復するのか」



「ネガティブ・ケイパビリティ」(帚木, 2017)

- 答えの出ない事態に耐える力
- 負の力
- 何かが「できる能力」ではなく、
「できない状況を受け止める能力」



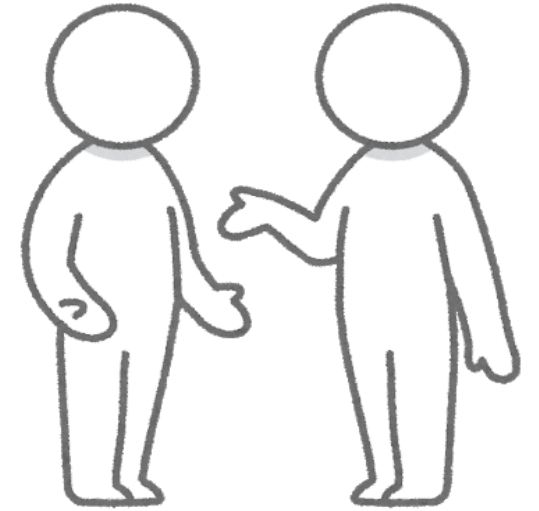
不登校とは

何らかの心理的、身体的、あるいは社会的要因や背景によって、児童生徒が登校しない、あるいは登校したくてもできない状況にあり、病気や経済的理由による場合を除いて、年間30日以上欠席がある



不登校における用語の変遷

- ・ 不登校は怠学とみなされた
- ・ 学校恐怖症（1941年）という用語
→ 日本では1955年から
- ・ 日本では「登校拒否」という言葉の使用
（1965年から1998年まで）
- ・ 「不登校」（1980年ころ～）



時代背景

昭和30年（1955）代半ばから増加し注目され出した

→ 高度経済成長の導入

- 人口の都市集中
- 核家族化
- ムラ社会の崩壊
- 学歴至上主義など



近年の不登校の実態

- 1995年からスクールカウンセラー活用事業が始まる。
⇒不登校の児童生徒の急増に歯止めがかかる。
- 2001年をピークに2002年に減少、その後は横ばい状態を経て増加傾向
- 2017年 小学校児童(0.7%)、中学校生徒(3.6%)
- 小学校から中学校にかけて、学年が上がるほど不登校児童生徒数は多くなる。
- 特に中学校1年生で急増する特徴(「中1ギャップ」と呼ばれる)

学校に行きたくないという「感じ」とは

- なぜ、子どもたちは学校に行かないのか？
- なぜ、子どもたちは学校に行くのか？



不登校の子どもたちの語りの紹介



不登校のきっかけとなった理由（原因ではない！）

- ①友人関係をめぐる問題（いじめやケンカなど）
- ②親子関係をめぐる問題（親の叱責、親の態度に対する反抗など）
- ③本人に関わる問題（不安や緊張、無気力など）

＊不登校の原因は？と追及しがちであるが、学校、家庭、本人、地域の要因が複雑にからみあっているため、ひとつの観点を取り上げても解決は困難なことが多い。

不登校の背景にある要因

- ①学校：教師との関係、学業不振、友人関係
- ②家庭：家族関係の心理的葛藤、生育環境の問題（虐待など）、教育姿勢の問題
- ③本人：発達に関わる問題、精神面（ストレス・不安・うつなど）、生活習慣、興味関心
- ④社会：目標や生きがい、価値観



不登校の経過

<初期状態>

- 身体症状：なんとなく体がだるい、気が重いなど
→ 頭痛、腹痛、動悸など
- 不登校の理由を言語化できないので、このような時期に登校刺激を与えるとマイナス



<長期化と予後>

- 昼夜逆転⇒心理的意味がある
 - ①夜中の静寂で学校行かなくてもいい時間を自分なりに過ごすという適応行動といえる。
 - ②寝ることによって起床して学校へ行くべき朝を避けたい。
→生活リズムの保持は予後がよい。
- *いずれにせよ学校との関係を切らないこと



<回復過程>

静かな引きこもり



豊かな引きこもり



登校準備期



登校



<不登校の類型>

- 神経症圏
- 発達障害圏
- 人格障害圏
- 精神病圏



<不登校支援の考え方>

- 結果としての登校を願いつつも、子どもたちの心理過程に丁寧に向き合い、発達課題を支援する。
- 不登校とは、まず家庭から学校に行く時に生じることであり、家庭でできることから学校でできることへ移行する過程
- 不登校の児童生徒へのアプローチは関係性の形成が最優先



アプローチ方法を変化させる

学校無刺激



学校関心刺激



学校刺激



登校刺激



<不登校支援の方向性>

①学校資源の活用

(保健室・相談室・図書室・別室・適応指導教室)

②家族援助の重要性

③専門機関との連携



< YouTube配信 >

幸せに生きるための心理学講座

by 奥野雅子

第11回 落ち込んだ時どうするか

第13回 自分にかけてた呪いを解く

第22回 どうやったら待てるのか

第26回 親ガチャ

第30回 引き寄せの法則



<https://www.youtube.com/channel/UCfv-aPLDwbqg4-UCQwB-tmA>

The background features a soft pink gradient. The top half is decorated with numerous pink and white cherry blossoms of various sizes, some with glowing white circles. The bottom half features a dense border of bright yellow flowers with green stems.

ご清聴ありがとうございました